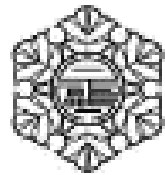


# 自他を尊重し、自信をもって未来を切り拓くことの出来る グローバル人材育成をめざして



東京都立白鷗高等学校・附属中学校

■ 令和3年度の事業 実施結果

■ 令和4年度の事業計画

■ 他の都立校への普及について

■ 今後の課題

■ まとめ

# 令和3年度の事業 実施結果

- 1 外部機関との連携
- 2 文理融合の学び
- 3 事業の中での工夫

# 令和3年度の事業 実施結果

その前に…

## 目標

- 3年間の取組を体系的にまとめる。
- 汎用性の高い内容の実践。
- 大学・企業とのさらなる連携強化により、文理融合の学びの深化を図る。
- WWL事業が終了しても継続できる、組織的に持続可能な体制の構築。
- コロナ禍の収束がみられた時点で、海外研修旅行や国際交流を再開する。

## スケジュール

- 探究型学習、プレゼンテーション指導、大学・企業連携、論文（日本語・英語）指導等は通年実施。
- CLIL授業やデバイスの活用を試みる授業実践は10月～11月を予定。
- 11月20日（土）にWWL成果報告会を実施予定。

# 令和3年度の事業 実施結果

## 1 外部機関との連携

### 新型コロナウイルス感染拡大の影響

- 海外研修旅行の中止による海外大学や研究機関での交流
- 日本で学ぶ留学生との交流
- 国内大学（研究室含む）への複数生徒での訪問

➡ これらはすべて実現できなかった

### 一方で…オンラインを活用した事業推進が成果を上げた

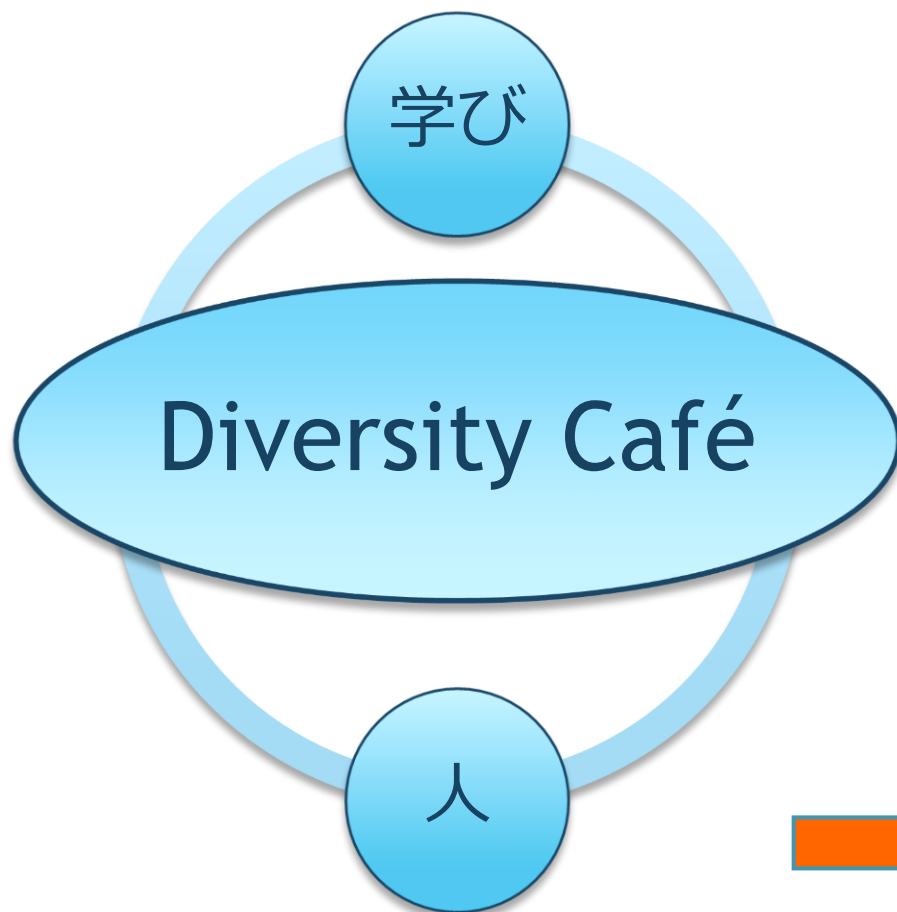
- ラフォンテーヌ校（パリ）、ミネルヴァ大学、都立大学、東京外国語大学、国際教養大学、筑波大学、大阪大学…
- 国際基督教大学、神田外語大学の授業連携…、他
- 清教学園高校、バサバーク・ノース・ステイ高校、都立中高一貫校



Diversity Café の取組

# 令和3年度の事業 実施結果

## 1 外部機関との連携



### Diversity Café の取組 (3年目)

- 生徒の知的好奇心を基にした多様な学び
- 放課後や授業のない土日に実施
- 学びたいことを自由に学ぶ取組

Diversity Café の取組を通じた  
外部連携機関と学びの広がり



白鷗独自の学びのネットワーク

# 令和3年度の事業 実施結果

## 1 外部機関との連携

### Diversity Café の取組

第11回 「『大学進学』の概念を広げよう

～ミネルヴァ大生によるミネルヴァ大学授業体験ワークショップ～

ミネルヴァ大学生、都立中高一貫校4校の生徒・教職員

第12回 「東京外国語大学の魅力を知ろう」

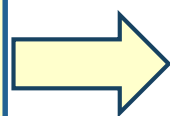
東京外国語大学の学生（本校教員の教え子との連携協力）

第13回 「ラ・フォンテーヌ中学交流会」

姉妹校ラ・フォンテーヌ校の留学生3名との交流会（対面）

Diversity Café

持続と発展の動き



第14回 ガーナとの交流会を企画準備中  
高校生フォーラム出場生徒が主催

# 令和3年度の事業 実施結果

## 2 文理融合の学び

- **HAPiE** (Hakuo Academic Program in English)  
で各教科の指導内容を統合 **あらゆる分野のテーマを英文に**
- 中学 **Presentaion** 授業で始まる6年間一貫した発信型  
英語授業 **Authentic な題材を用いて文理融合の学びを実践**
- 白鷗版「論文検索・閲覧システム」の構築  
**過去の優秀論文の閲覧を可能とし、学びのステップアップへ繋ぐ**  
**本校HPにて校内限定で公開中（論文レポジトリの発信）**



# 令和3年度の事業 実施結果

## 2 文理融合の学び

### 外国語や文理両方の学びを融合した取組

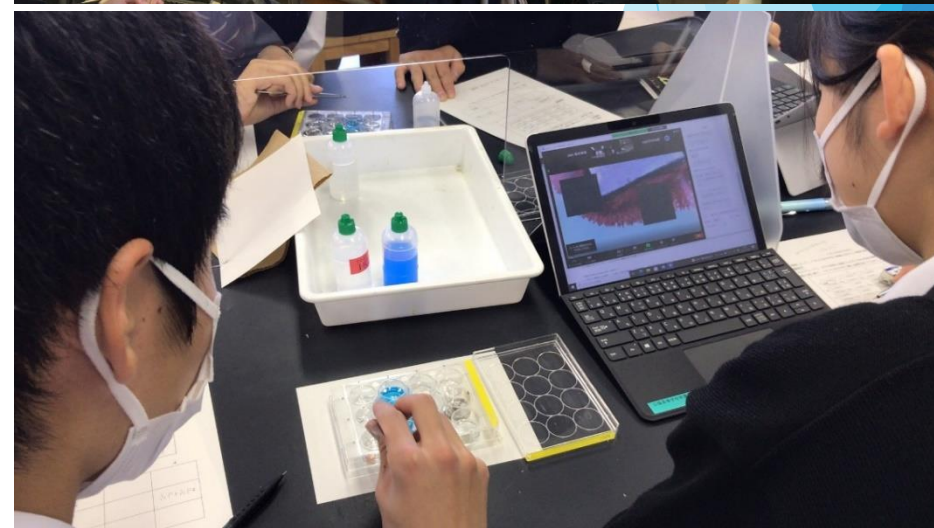
#### ■ Society 5.0 時代の学びに向けた取組

11月12日（金）9教科・科目（国語・数学・地歴公民・理科・体育・音楽・英語・家庭・情報）で、公開授業を実施。通年で行ってきた1人1台端末を活用した授業の工夫・実践を広く全都に公開した。

#### ■ CLIL授業への取組

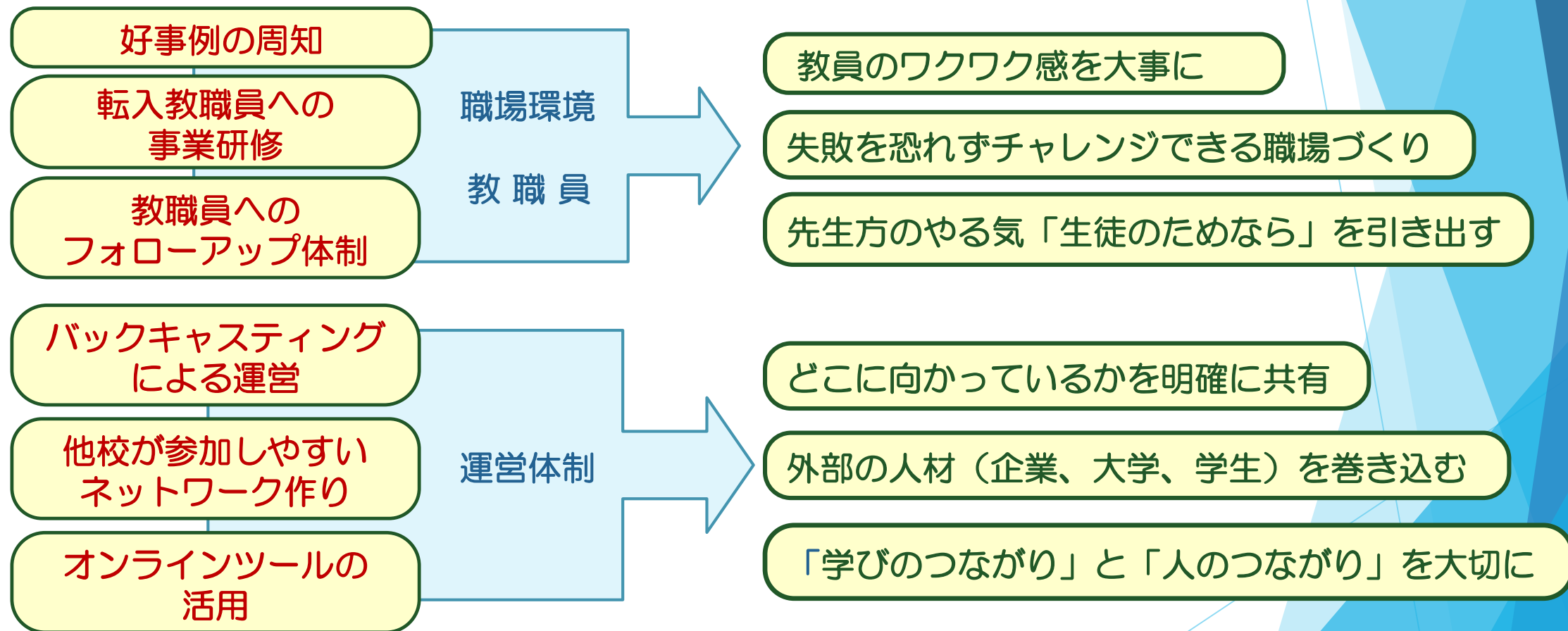
12月13日（月）・15日（水）の2日間でCLIL授業（ソフトCLIL）を、中学2・3年生、高校1・2年生を対象に、国語・数学・地歴公民・理科・保健体育・家庭科で実施し、全都に公開した。

#### ■ 第二外国語の高校カリキュラムへの定着と他教科（地理歴史等）との指導内容の共有化と深化。



# 令和3年度の事業 実施結果

## 3 事業の中での工夫

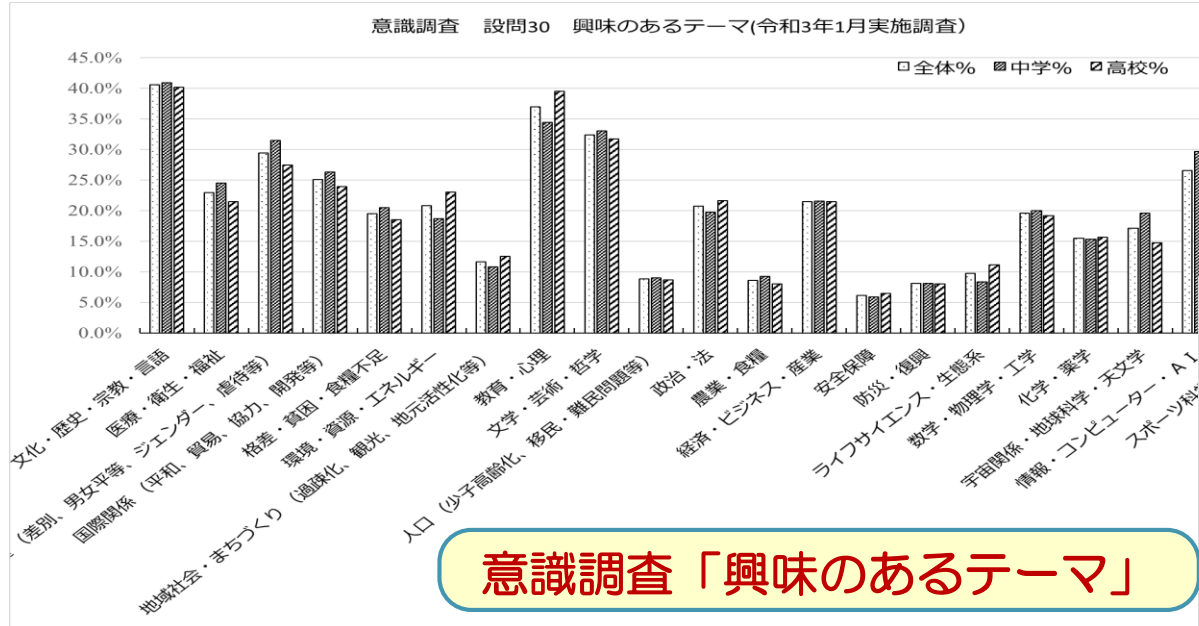


何もしなければゼロ、動けば何かが変わる

# 令和3年度の事業 実施結果

## 3 事業の中での工夫（例）

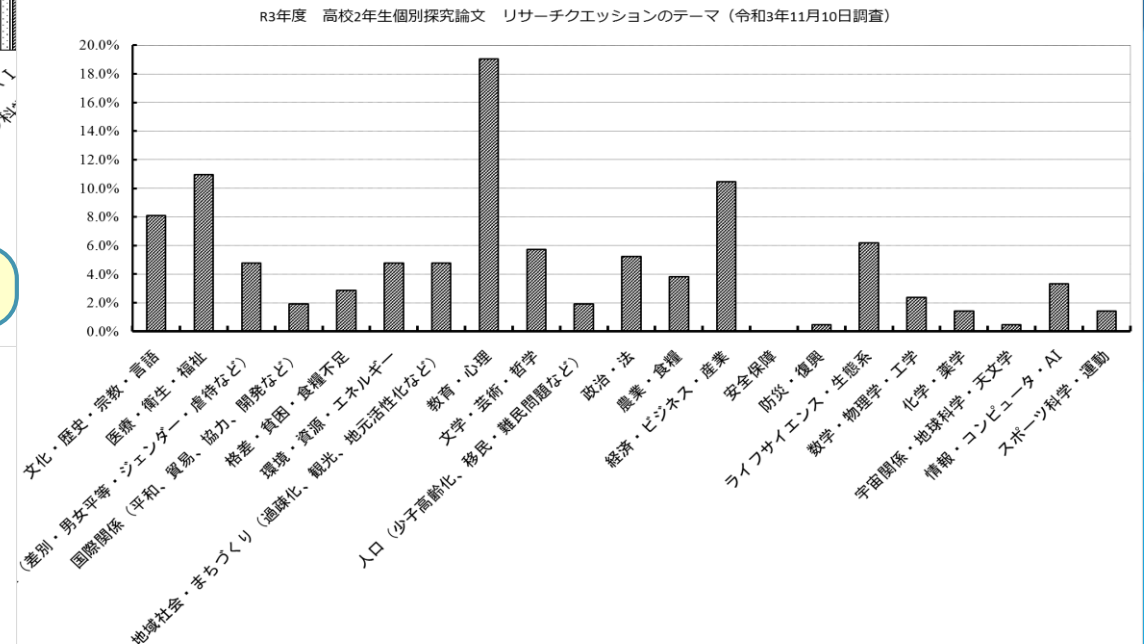
### RQの設定における分析



### 意識調査「興味のあるテーマ」

興味ある分野 ≠ 研究分野

### 意識調査「リサーチクエストのテーマ」



# 令和4年度の事業計画

---

# 令和4年度の事業計画

## 1 生徒手作りの海外研修旅行（新規事業）

- 「修学旅行」を、  
自分達が選んだテーマで、自分達が選んだ地域・国で、自分達が考えた企画で、実施する。6年間の最大の思い出を「自分達で」作ることと探究活動を結びつける。
- 課題探究型学習への心理的ハードルを下げ、テーマ設定の初期段階で取り掛かりやすくする。
- 教科横断型の学びを随所に入れ、各教科・科目との連携を深化させる。
- 企画作成の各段階で、各国大使館、外務省、旅行業者、現地企業、現地研究機関など、様々な外部連携機関から情報を得ていく必要があり、「ホンモノ」に触れながら学びを深める活動となる。
- プレゼンテーションの結果で、実際に修学旅行として採択する企画を生徒投票で決めるため、「ホンモノ」の緊張感あるプレゼンテーションとなる。



# 令和4年度の事業計画

## 1 生徒手作りの海外研修旅行（新規事業）

### 背景

#### ① 高校募集の停止

→ 完全中高一貫化（令和5年度高校1年生より）

→ 高校1年生での探究活動の「学び直し」の必要がなくなる

#### ② Diversity Café や、教員のネットワークの広がりによる外部連携機関や学校外の協力人材の広がり・充実

次年度中学3年から探究で活動開始  
この取組による研修旅行は  
令和6年度実施

| 中学3年                | 高校1年                    | 高校2年                   |
|---------------------|-------------------------|------------------------|
| 地域や旅行企画について授業等で事前学習 | 外部機関も招いてプレゼン<br>生徒による投票 | 出発最終準備                 |
| 各自でテーマ決め            | 採択企画決定<br>(3コース程度)      | (夏季休業中)<br>各コースに分かれて出発 |
| 国や地域選び・選定           | 旅行者業者選定<br>コース別グループ分け   | 事後学習・振り返り              |
| 企画・コース検討            | テーマを細分化し<br>探究を深化       | テーマ別探究論文               |

# 令和4年度の事業計画

## 2 外国語学習の「ホンモノ化」の促進

- 「表現」をテーマにした文化祭で第二外国語による語劇と料理展の導入
- 学校行事を「ホンモノ」に触れる学びのきっかけにする
- 東京外国語大学と高大接続協定を新規に締結（現在大学内の審議会通過中）

このつながりを最大限に活かし、外大生と本校生徒会とのネットワーク作りを推進し、生徒自らが「ホンモノ化」を実現する体制作りを行う。

新規事業1・2を通して実現したいこと・目標

授業 × 学校行事 × 課題探究型学習  
＝ 学校の教育活動全体を貫く柱の形成

白鷗に入ると「〇〇が出来る！」

# ■ 他の都立高校への普及について

---



## ■ 他の都立校への普及について

- 令和3年11月20日 「WWLコンソーシアム構築支援事業成果報告会」
    - 第1部 本校のWWL事業3年間の取組成果を発表
      - ・6学年すべて生徒の発表を交えての発信
      - ・卒業生による発信「WWL事業が将来の学びとどうつながるのか」
    - 第2部 ①高校全教員体制での探究活動の取組、②英語論文作成のノウハウ、③発信を中心に据えた英語教育の取組、④第二外国語学習の意義、等について**内部資料\***を配付して説明、研究成果を広く還元。
      - \*「指導の手引き」、「校内研修会資料」
  - Diversity Café の取組 ---- 都立中高一貫校へ周知して募集をかけ、4校の生徒・教員が参加
  - 令和3年11月12日 「Society 5.0に向けた学習方法」に関する公開授業実施
  - 令和3年12月13日・15日 「CLIL授業」の公開授業実施
- 教員ポータルにて  
全都立高校に周知
- （次年度以降の予定）多くの学校で実施されている学校行事を利用した取組等、どこの学校でも無理なく実践可能な内容について報告会等で情報共有する予定。

## 今後の課題

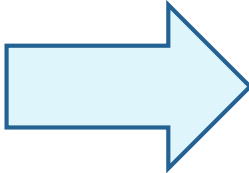
---

## まとめ

---

## ■ 今後の課題

- 教員の異動によって変わることのない盤石な組織体制の構築と全教員の指導力強化
- 事業を計画・実施・推進する  
校内組織の構築とそれを牽引するミドルリーダーの育成
- 科学的手法やデータによる成果検証
- 外部連携機関との折衝やその対応、個別論文指導や外部コンテスト出場指導等にかかる時間と負担感の軽減
- 他校への還元（報告会や公開授業等の公開行事の周知）を、どう  
いう手段で、どの範囲まで行うか



持続可能な体制構築

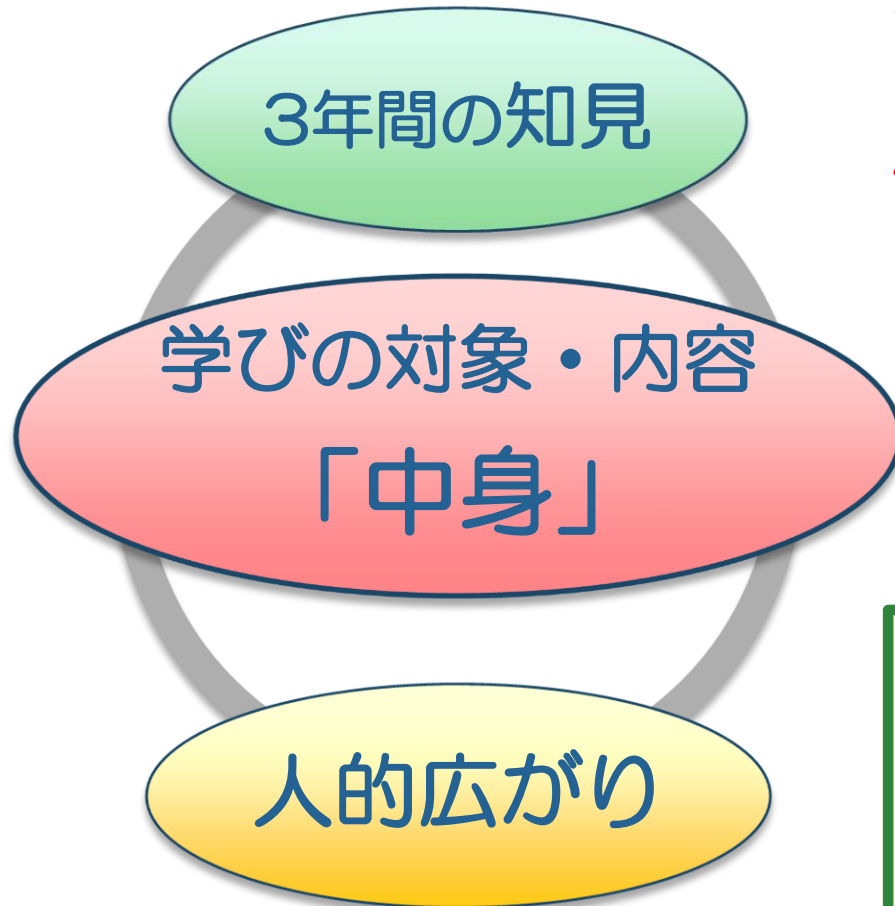


検証方法の検討



# ■ まとめ

令和3年度までの3年間の知見と人的  
広がりの基盤の上に、外国語という  
ツールを通して発信する「中身」として  
何を学ばせ、何を身につけさせるのか。



ここが個人に頼る体制になっていないか？

この内容を真摯に検討し、深化とシステム化を図ることがカギ

白鷗に入ると「〇〇が出来る！」  
生徒も教員も誇れる学びを求めて、  
事業を進めていきます。